



「バンザイの 姿勢で眠り いる吾子よ そうだバンザイ 生まれてバンザイ」 俵 万智  
(万歳をしている姿勢で眠っているわが子よ。そうだ万歳、生まれて万歳)

5月5日は、子どもの日。すくすくと育ってほしいものですね。

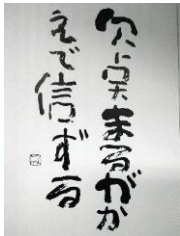
## 子どもを信じる

相田みつをさんの名を聞かれた方も多いのではないでしょうか。ここで、相田みつをさんのことばを紹介しましょう。

「欠点 まるがかえで 信ずる」 みつお

短い言葉ですが、味わい深い言葉ですね。

その書の紹介と共に、次のような言葉が書かれていました。



中学2年から登校拒否状態に陥り、強度の不潔恐怖を伴った強迫神経症に苦しんだ少年がいた。身体が汚染されたと感じ、何時間も入浴したりした。父親は少年を頭から「ろくでなし」と決めつけ、少年は「どうしても自分を分かってもらえない」と苦悩した。少年は家出したが、盗みでつかまり、教護院での生活を6ヶ月強いられた。だが、教護院生活で少年はたくましくなった。住み込んだ新聞店主の忠告で、菓子店に勤めた。教護院の教官や新聞店の店主が自分をわかってくれたのだと思ったのだろう。いまは菓子職人となり2児の父である。

「相田みつを いのちのことば 育てたように子は育つ」

相田みつを 書 佐々木正美 著 小学館

「青少年育成センター第39号」で紹介した“ひび割れ壺”の話を覚えておられるでしょうか？ひびが割れているせいで、十分に水を運ぶことができない自分のことを嘆いていた壺が、ひびの割れたところから水がこぼれ、そこにきれいな花を咲かせたという話です。まさに、欠点が長所にもなるといった話でした。(これまでの「青少年育成センターだより」は、防府市のホームページに載せていますのでご覧になってください)

このひび割れ壺のように、私たち人間には、欠点がないという者はいません。逆に長所がない者もいません。私たちは、誰もが欠点を抱えながらも長所を活かし、なんとかバランスをとりながら生きているといってもいいのではないのでしょうか。

私たち大人でも、欠点を責められることなく、長所を認め、信じてもらい、できたことを誉めてもらえることで、何事に対しても、意欲的に取り組むことができるようになるのではないのでしょうか。子どもも同様でしょう。子どもに何かできないことがあっても気にせず、できることに目を向けて伸ばしてやればいいのではないのでしょうか。

親が子どものことを、“欠点をまるがかえで信じる”ことは、子どもにとっては、親の最上の愛情表現なのです。子どもは、親から愛されていることを感じることで、様々なことに安心して取り組むことができるようになり、その結果、失敗してもそのことを成長の糧とすることができるのです。

私たち親は、我が子を他の子どもと比べることなく、あるがままを認め、欠点まるがかえで信じてやりませんか。